



誹諧鑊

雨之部



^ 5
1928
4



まらひの
より
そけ
まき
ちの
まよ

隠里軒

平砂
神祇
意
の
考
仙
り
ふ

市
後
坊
香
ま
二
荒
不
い
神
ま
子

今井立鼠

伊
那
以
百
島
茶
法
サ
四
古
八
極
屏
市

かうこの白と
 僧尼松
 桜名所
 句依に実脚子
 白とくひらねの
 白とよ
 志とさくらうら
 仰と仰とへきう
 月花の白と
 とつとへ
 かの
 るとあ

田頃と志仙と遠なる吉原
 酔醒のまゝる所とく旗送り
 麻のあつめても秋の建長も
 人質とまてては地へぬ入して
 夕暮とく咲く十九の相の花
 鴨の毛と捲るも元のまの上
 存りのをまかる雉のあつ
 傀儡師あも上まの元ては
 志方せよゆるとハ知く茶食
 紫陽花のあも付公のま後
 九まよあも年と斬の年
 山寺は居るあるとの境の声
 福のあつたのあもあまきより
 物のあつたの外を伝へて天川
 くるまるとへてきうあ年男

銀花齋

強弱あつた
 かうこの白
 舟
 雷
 伏見
 湖上の景
 夕のよまきと
 夕

立賀

傾城と目とやける住吉
 夜とく原と素のあつ
 子あへの周平あ巻とくま
 之里のあも二里あつたの泥
 多まりつとる仲の船は
 遠くあつた遊く見の居れと
 号とぬ花と祇と居るあ
 巻人あつた巻の雷と本
 巻のあつた元日と飯
 うき堪離のつとるあつた
 席とあつたあつたあつた
 前あつたあつたあつたあつた
 庵下とあつたあつたあつた
 袴あつたあつたあつたあつた

りつるまき
地あま
つらした
所と
考ふへ

葛菴

法弱
更ふへ
舟
松
古
人

うのころと他家をたぐる蜘蛛
ま舟の音を遠まのほうして
喰へとゆるまをかいしく孕牛
室へ着く口の仲る目頭
弱と弱松よきるまきへ
栂日向の松郷白の柏崎
そむむ時ころ被のまを西
日さうの断は林のト御涼
去逆さまよ物る 情る
かやうき右左のとのまゆき
加急の流まを流め坊のま流く
まの秋ゆまへる年まうて
と保涼しゆるの髪まこり松
ま麻まといと振る幅こ
ま精とトとままの断まつま
着病の眼ままはま松流ま

滕李門

蜜の所おまゆぬ仲の
ま踏ま牛ま踏まを猪の殿
まにままを魂とまゆけ屋の
ままま中ままままま
ま松ま振ままて居ま不竹
ありりくのねま乳母まま
まままま又福のまま皮
小豆の下のま好ままま
岸又柱のゆま
ままま田松ままま踏ま
ままもまままま日
水まままままままの中
用のままま揚まままま
お松ま糖の片見の日ま

〇〇〇〇〇〇

おくさる長
有り

景文有る

え申した

おくさる

作念

し

風古茶

在中菴

やうくある

あり

よふ茶の

江五舟の

切紙舟へ

まはりの

あり

あ

あり

あり

奥取地石

母
目と鼻の
元船へ師走の
か
欠中
七日
屋
侍乃
風
大
杖

埜 宣我

父
是
之
形
云
角
内
水
白
卯
初
毛
江

朝の楽節の

比呂

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

一州菴

一昨の夜ふ

方を梨

す一隊あり

うら白より

一昨白の体

えりけす

聖廟の

白より

中より

白より

道より

白より

白より

おー楽し各茶屋の懐
 ぼりさすふ家山の日掛
 遠習ふ子よ思ふるの心
 貴子の終りしきりお清さ
 破魔弓の夫婦よさすむの包
 下師の士生い念此の盆踊
 吹風巾之弦跡さる素々
 大守よ清い所さ清う
 蚕の核拾取りて
 五六寸毛尺へ部毫の横織て
 怪泉乃山て女師の身跡能え
 内長運江の清海と元
 難うその元日らん版
 是も是なり園之の婦
 産院の習息もあつて出る
 百遠ふと傘も之井の下

室田徳英

涅槃舎に抱れくぬむ色知ん
 意寺と神の片ふくさるの
 年ハ業とと医師のす子
 位と源とと笑ふ能
 七く涅槃とと愈る七癖
 扱さ指ハ皇と馬のとん
 女医師文殊の習息は
 妾乃多うそい
 起さるる福ハ麻とと茶
 ちりそり刺とと拵る高の世
 痛せととあさるふ
 古語の定とと袂衣
 背中合の中とと又
 又と那治乃すよ

勝しあて
 か 理をめぐり
 白紙いよ
 いわゆる
 ぬめり
 喜ぶる
 下早なるも
 六の
 て夏の句よ
 三つ兵又四
 あしき
 執向
 とくよ

玉蓮舎

和
 新教
 魚白
 人名
 牡丹
 杜若
 蓮
 松おの葉
 賞色
 行

松の巻ふふ大工おけ ちよ
 糸糸千纏へ赤河は双た
 魚思ふ小虫きぬ尼と成り
 植をて男へ後には神は福
 楊柳ふく難乃青葉えよ
 松ふけは天と智蔵の麻くま
 新水形る井と汲る 尼
 法出さゆく 舌り 一
 ハ樹と小系乃牛古傳り合
 詠た浦へ今ハ 花 近
 原を結ハあを松と息よ男へ
 井伝はあそんて仕家一地帯賣
 賑々り今ふ 昔
 馬乃粥 喰ふ時 九つ
 靴と折 治色の牛
 喉舌と神 まで九ヶ柳 標

島 祇道

炭家の突る 賣地ぬ下忌
 栗の甲 成 虫とあり
 楊の中と初傳乃 母衣
 おいぬ妹と蟹の乳もあ
 角田川 四月の人も海
 風よと食 石あり 松
 西りも油と一夜のり物
 選りの藤と男ぬ糸へ糸
 二夜目 此解のり糸
 終癖のつ 新造の心
 姉の脊の中 小あさ守吉
 袖の蜜 梅も母へ 孝
 新造の香る 房さぶら
 女男川 七浦川の流伝て

仕まゝ

寂寥の白

まゝ

古人の名

蛙 蟬

分柳の地名

王 聖 舎

無 樂

強弱交へ

系地必す

意 牡丹 様

秋 教

一 神

白 紙

伯 傑

か

寮の芭蕉へ見のしり書
 お筆の片も小提の杜若
 子とてふ友の釣瓶は灯とて色を
 元く正月も百草又皴
 象と無じ團子の
 湯一町筆とてまの
 七日くよな家
 方丈へつつは女
 思ふかゝ嘆息も喜ぶ
 裸す物の子版子
 落の端入りは葉田子の
 杜若様は振袖
 師走の心
 例へんは筆の小船の
 をも志す
 花の

加 藤 萬 磔

宇都の山尻とて夏の
 夏乃の山とて日又折る
 田村川朝日とて雨
 揺めらけは色ぬき
 春とておうい袖口
 獅子舞のおつて
 外乃茶こよえ
 利口派活け物
 福如
 象
 樹の
 位列
 上

山所

系の端

上方比叺の

うらた

無樂

井下菴

強弱ありし
す一うきしき
松物或ハ松物
茶の湯又ハ茶の
湯ハハハハハ
極めハハハハハ
世話中又ハハ
ハハハハハハハ
ハハハハハハハ
ハハハハハハハ
ハハハハハハハ

我性のしふふなるるるるる
背丈ハ又伸るるるるるるる
収収の碎々破破おるるるる
角文子よよかの悟字おち
板々ハハハハハハハハハハハ
表匠の版の摺も 菱椒
系乃水又汲くも流ハハハハ
富士ハ系も海百るるもハハ
ハハハハハハハハハハハハ
鞠も蹴る柏木村を揺る
解ておるるるるるるるる
蒲ふふふハハハハハハハハ
岸おもさうハハハハハハハ
牛馬あて房るハハハハハハ
死ハハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハ

瀬上双鳥

悠乃子おるるの草ハハハハ
ぬのしるるの草ハハハハハ
萩ハハハハハハハハハハハ
芝草の塊のハハハハハハハ
寧業ハハハハハハハハハハ
伸業の草ハハハハハハハハ
文巻揚ハハハハハハハハハ
湯甘ハハハハハハハハハハ
食後の画匠の法ハハハハハ
石賣の年南ハハハハハハハ
人形ハハハハハハハハハハハ
ゆけハハハハハハハハハハハ
初ハハハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハ

関 鹿子一匹

杞梯 物杞

五加木 唐鳥名

菊葉山

旭道 鳴棹

雀堂 毛花

東北名 桑中名

白人麻 兎達

今秋 蘭引舟

画のみ

月夕意

一神 強ふ

白ゆ

實さ なる

はまや

新の句

行り

虚堂僧

梵論

舟くく白大欵子運ふ末士も
十日まで仲おろけりも氣さ
糸音尺てもかき毛さつ系
忌せりて糸を笑ふ足のう
枕の花大まう終るの料理層
去と女房もさう遠ふ之井
大根さきうていふく子梅
葵の咲中を清ふの枝流
赤中を入きて表根の表首
蓮干りかく木房のま桐
舞海の隅尔場は江戸の竹
尺今ひと連るある松後
荒本田の舟子業娘のこり
葉と乾干り此川の所
うきると毒の白く川が
流る尺とれり

杜和推

旅乃無路もまのの
欵りまのくまの
梅干し常あると眠らるる
陰も実とく梵通の道俗
舟のく一輪菊は
角力なすりて落ぬ箱進
徳居の持嫌あるもく子
浮るは候の也替女のふり
物もハ合ふ室のふれ路
怪しく思ふとるある梵通
同知のま心先弘行
寺のの頭下て麻屋望り
ぬく智教く落る折
と小便よさうく

馬の白月
夜く

さき
り

張白
お

す
り

さ
き

は
ら

桂窓

強弱交へ

才一何

正と考へ古

のゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

言直よ買りて笑ひて嫁
 急ぬ娘の志気部と問う
 角力もてはゆの折傷察り電
 そろくくと祝のさうも早もん
 夜の白を売ハ袖とえさるゆ
 虚に傍の姿よハゆぬの馬こ
 揚波縁辺午馬の響りて
 我者乃出上の柳り
 細母ぬえりてゆ人もさるゆ
 蛇とさふおよぬゆのさるゆ
 小らんゆふあゆらゆふゆゆ
 大津路ゆゆおゆゆゆゆゆ
 教入のゆゆゆゆゆゆゆゆ
 さゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 新宅ハ二月三月夜ゆゆゆ

牧 冬映

麦の秋筆州さる巻の中
 火と投中りゆ 袋ゆり
 麻像ゆゆゆゆゆゆゆゆ
 小産院のゆゆ甲をゆゆゆ
 女ゆゆゆ人乃おゆゆゆ
 給仕のゆゆゆゆゆゆゆ
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 水ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 考ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 神軍軍軍ゆゆゆゆゆゆ
 道ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 をゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

湯子白うも

かうし

と加へ

てい

徳い
い点有

松
まゝ

何うも
今
う

多重番

平生菴

強弱まゝ

やうか
あは

急
実ま

ま
真あり

松
まゝ

あ
おし

の
五

今に二度とくさるは、
 師ふ物と置れ、
 元以の節多へうか小庵子、
 元車子、
 鞠場の物少れ、
 之様乃船、
 吾系と交りて、
 火串を、
 叔文の一、
 調合、
 取、
 入、
 市、
 ふく、
 飲く、

間 官梅

手の扱、
 ま、
 笑、
 立、
 初、
 形、
 今、
 番、
 之、
 初、

多々其鳥の

あつちう
あつちう

鴻月樓

一昨
あつちう

降るころの

あつちう

すべし

あつちう

あつちう

武士めあつちう
あつちう

弘井菴

衆 灌河

虫下り又あつちう
凡そへ鐘の音
指貫又東の代
女にささるる
都多々候を
左の指の袖吹
後と多々候を
画の指乃瓦と
衆 灌河

僧指定乃ち水と
年を忘るる
土を忘るる
看るる
屋根無の
花柳
山崎
市
者

頼向とてつけ
つる白きらめて
とちりま
さき白のちり
ちれあ
とちりま
うきま
おろし
上あま
ゆるくま

日本地

一 巢菴

一 竹やま
ゆるくま
まのま英島
ふりまが
うりま
かきま
日用のま
ゆるくま
あま

物かみおま
傳り
孫子
まき
白の中
くら
ま
あると
降
洗
困
田
舟
と
ま

牧 雨澤

長
大
并
ま
眼
ま
小
女
棺
糸
川
棟
幸
あ

新らしき
 人よも
 短白を
 一葉香

鳳居宇

かり〜
 鳴く白作
 尺骨〜
 一祈
 多美長乃

星の山辺〜
 順聖の〜
 幡の〜
 腫へ〜
 白の〜
 百の〜
 ま〜
 か〜
 ち〜
 餅の〜
 実の〜
 産の〜

浅井々

物〜
 梓巫女〜
 通〜
 杖の〜
 杖を〜
 か〜
 巨〜
 此〜
 非〜
 梅〜
 多〜
 細〜
 市〜

くち

所 処

理 屈 ぬ け

ふ あり

あ げ け ぎ

白 け

様 の 字 あり

ぬ じ

る ち

旬 樹 菴

信 弱

ふ け

鳥 雲 あり

ふ け

ふ け

白 と あり

け け

船 あり

ふ け

物 あり

け け

風 呂 あり

春めきの女は早キ京の山
 工ま〜〜〜 帰る〜 出た杖茶
 軒並日百指の巻山
 買山志つふ系ふりし新煙所
 九まのきふ用ぬけり世奪
 刻下名堀川りあし
 松並社跡るうあ地の所り并
 欠けふ娘乃妻が女に道
 戸柄〜 後出〜 夫よりあり
 袋う〜 貴少〜 秋の泡吹中
 奥の信し所も程なき丹波に
 所を内松乃通るの岸口
 お後乃火神又眼の四く
 うふ内の襟〜 教〜 心の
 候萩叶の系杖林道のきり
 いか〜 雲〜 あり〜 あり〜

牧 五 陵

約女為係乃白ひあ〜 けり
 少〜 けり 雲の研人けり
 屏〜 けり けり 持 けり
 師 走〜 けり 物〜 けり ぬ けり
 大 熱 けり けり けり けり
 計 けり〜 けり けり けり けり
 子 けり〜 けり けり けり けり
 妻 けり〜 けり けり けり けり
 厚 房 けり〜 けり けり けり けり
 高 崎 けり〜 けり けり けり けり
 族 筆 けり〜 けり けり けり けり
 合 乃 けり〜 けり けり けり けり
 吉 崎 けり〜 けり けり けり けり

ゆゑに

まこと

一作の

たふさ

たふさ

たふさ

たふさ

たふさ

白梅菴

十花菴

強弱

白と

はま

新京地

魚白

たふさ

たふさ

郭公筑摩の詔の上より
 盃とほくし初く世の川
 おりひ出さる石代の龍
 系原の巨魁と抱きて拵
 家細一の飯おたてて
 面淋し椀をうけ戸と
 定ふしとて藤をゆき
 房くおりの湯場の白壁
 多き道牛とて拵を信は
 九軒飛く初一とて
 狐つさね所書伝みさ
 海原ふこ見の保気味
 幸ふしとて著る龍
 女房の積
 神盃とて小舟を
 送るて拵

景 信馬

漢土の扱ゆ海を疾の門
 海をくしと女のゆふ
 其の舌と握く種ふ人多
 却又の降る海とて
 駐突の言芽種とて
 二之町ふ海とて
 たふさとて女子の執を
 一町とて海とて拵を
 今上とて海とて拵を
 ハ新居とて海とて拵を
 庭地とて海とて拵を
 築儀の築種とて拵を
 智識乃神牛とて拵を
 田植の海とて拵を

一折五白

やう

ゆ

十芥香

古傳業計医松

奇書放号梓

巽久安信物伝

汎涌故の録

修護志記念書

う秋眉乃乃

北之度也

茶備出尾小首

小生及替女子舟

航才系即糸春

濁系修古乃後

卒人巨魁後切

-5 157 33 324" data-label="Text">

追扱切重上裏向

-43 157 71 324" data-label="Text">

按待獲也

-85 157 113 324" data-label="Text">

此段より其り

有無菴

馬場存義

醫又よふは遠き相の毎日
仏と家よこを補庵
因の去甲か凡のある古
胡之老よ高子湯乃内と結
院一挺く像ハあゝ子
松の果少く縁多くく尼
戸り例まきくも比敷の山表
子以傳りある海河此主
派生の末も一夜冷ふ寺
亮り創ひ庵下一
卒部島百下を序席る而地
如中の中に能ききり
蓋お上り 冥冥の道
筆深きく洛外へ出る
寺が破る時り 飛 庵
よのゆき聲の籠る菴草

拾遺も相まらぬ
足乃、まるとわらぬ
射落しとまらぬ
親指よまの申す川
ゆ蛇の体一滅医と痔せ
牛乃 機噪とまの朝珠
又漢くまの替女乃云り
次乃の噴くまの字
雨乃二階く這入る
白髪以つる古
子と入る音探り七籍の
品入る音乃中
符書く富ちと強石の
怖しとゆらるる 敬付

子五

〇物

近頃の及々こ
くひなをまき
も付戻りこむ
くく定りく
すくくわわ
たのうく
かくくく
あ
候くく
極く
武士の情と
を叶く

弱れく
候のく
日乃山積此
の系地酒の
る市野 滋金
妙徳小波一山
寺徳信師温泉
吾く
持く
南守蓮 一
室并松角 琴
年若人契門
鎌もく
空也忌迂宮
伯淑盲る
許和 志
あく

古の思く
霜の寺は一日
雷の底も
や同毎く
園く
凍言く
檢位の下りる
石か乃
母一人小神入る
白水の丸代
灰アは
少使口社
戸とく
千

櫻歩菴

交買明

門乃
法華
老丈
漁飯
根乃
蒲
川
婦
教入
性二
八
七

子
子

二

孤樂陵弓
和壁 赦免状
官方大文司
新田回小信
系内閣下化
井原一 左近
山原 陣中
軍中
是七一候

和心 系内閣
ワシ像 追善
存心陣書
温泉 雲水
吾又羨
母夜舟足才
植田信 寺
從 忍ひる山
こゝ地
世控人の
百多忌
附
笑
仕

一昔名く〜と申すり物揚屋
と深さハ蝶も木端の〜馬令
浮尺の沖後生乃乃松り
赤鬼も〜に系川
梅廣〜に夜 檜の樹おら
一カ交封と天比〜星次
布島社〜絵白の〜板
主や浪 膚乃落る 墓四りて
系る〜や怖い〜山
女と〜く書〜ぬ 蛇所
小〜と〜に 為雲々 福
左近も吐乃 今小信
〜いま〜娘と 園〜志ん桂
帰格乃付と〜 帆風
鶴物〜帳乃衣の〜

新樹菴

花隈多少

系の子乃乃初ハ帆風
〜子〜ハ〜仲居〜
昔何琴と〜く〜
〜遠〜の控〜人た〜
傍正乃上子果報の母 けり〜
左番の換後と 杖乃垂〜
牛〜と書乃乃海産 伊勢の爲主
一橋と書乃乃海産 伊勢の爲主
所廉〜は家 像 本取
時〜〜〜陣の利運
中地子お月乃子の示 定め
おのち〜と笑く 妻
入口〜送る 侍 人乃妻
ぬ〜〜と送る 侍 人乃妻

日まらば
とまらば

初之 冥明具
のし 初らう

蓮 群宮
梓 七せえ
あつ 仲居
栢よの 比呂
左近 伯瀬
系り 東山
万歳 橋上
舟宿 須戸
髪結なき 園
和女 妹うり
梅 七輪の板
初途 初幸

樂成菴

藤中温克

具足是く笑りける世にぬらう
温泉の迹く見ても藤のつらきく
若竹の葉は深木の内 ぼひ
春の乃 羽織抱くく 紅
紅とハ 伊ふせんよの 正
真一待 切りまらんと 藤立
羽子 核く 今年一の凡とまひ初
大この 修くを 糸一 藤子出く
捨く 孫乃 大夫 右 借
せつう せよ 衣乃 相一 借居まらく
松明 振ふる 勢乃 青啼
唐乃 思業くと 捨子 田山
龍雨く ぬ時ハ 河系は 布端く
此太口の 代りよ 借乃 合く 借
直鞠よ 出るも 借加を 真帽子 持
糸の 結るく 借し 借の 借二 借味て

五

五

葵子 田極
杜祀軍とる
歌 追
赤 女人堂
木尾町 橋
石油 通夜
競馬
とうくら中
とくくく
と

強弱わり
奇舞妓 語
道達の白作走
くはとと
くけ合の走
て好
このま
合
海
旅作の
火
石
と

ふ入てほまるく山さ
を良坂の産と細るは
山一つわ 系乃後町
おのの波へさる年
眠うの妙て蓮の寺乃
若田路れ初日のえ
衣の押の中と
まの牛と親よはぬの
あふりもを足跡
七郎の叔嬢まつた
逆うゆは持ちし
梓ら揚屋ハ人乃家
七世先の心
北 在轉

院乃乃若の御様と
山崎と係よ
川 侍の鳴乃桑
怖くは
細の葉や
初先よ
草 ちり
海 岩本
松 明
乃 年
た 美
麦 ち
産 ち
年 七
月 七
川

琴 奇 多 士
警 女 人 必 有
ハ 中 子 論 語 文
ハ 詩 書 之 如 一
買 文 之 仕 立 下
事 々 一

芳 野 氏 忠 進 後
流 丸 甲 子 乙 甲
長 陵 命
負 欲 支 離
概 化 宗 法 義 友
約 亭 並 系
生 身 玉 布 施
茶 湯 入 定
日 乃 氣 左 迂
紀 念 師 坊
妹 信 思 院

所 言 之 後 尼 子 ぬ せ 也 女 人 堂
ハ 歌 の 者 ハ 衣 袂 子 積 る じ
女 如 善 善 子 ハ の ぬ ぬ 修 城
今 子 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
京 揮 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
後 雲 ハ 子 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
吉 系 乃 結 嘆 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
公 子 子 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
子 子 成 る ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
之 の ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
向 遊 指 下 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
概 子 子 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
山

神田菴

木村小知

瀬 後 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
雨 子 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
大 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
和 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
任 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
江 礼 澤 在 深 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
海 上 帰 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
公 子 子 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
店 乃 好 意 惹 誘 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
凡 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
秋 風 吐 吹 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
寺 子 子 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

華 大のま
生契 替女

和心夕と樹
く板さる様よ
仍く
るさる 茶子
茂林寺 施茶
花より 今市
女御 系比奈
田植機 踊
神鳥 膏
左馬殿 万歳
田舟 億億係
時辰 水鳥
御忌 心仲
生身玉 仲居

利休のあつし惚れさるる
端分る端も道るれ 虫乃声
目乃あらの白粉をけく 恋やう記
りふさし 花さるは帰る信
初鶴の啼き 雑候床の列き子
足代よりして引とる 涅槃像
又賣子今あつ 去の討切りて
笑りぬ 時ハ 悔る 縁へえ
一着さるくことやうり 物扱
結納のさく夜家尻と切しり
菴堂と一佛よりし 好よりし
青紙と端より 六丁土
情さるく田原の本綿 端出
欄乃戯せも 諸の道に生
し 終りさうりやうる 終り

連莖菴 志村常仙

算入の日子あつし 惚乃
吹乃 骨柄 此申は 後居て
わうく 肩叩りし 日野 市
任 向ふ 乃 柄折ら 乃 柄折
庭子 乃 乃 乃 乃 乃 乃
床交 乃 乃 乃 乃 乃 乃
雨合り 乃 乃 乃 乃 乃 乃
龜山 乃 乃 乃 乃 乃 乃
茶入 乃 乃 乃 乃 乃 乃
予 乃 乃 乃 乃 乃 乃
ゆ 乃 乃 乃 乃 乃 乃
怖 乃 乃 乃 乃 乃 乃
比 乃 乃 乃 乃 乃 乃

分

十五

系とふし
きとふる言
り
後りとぬんて
江戸よき
産れはぬ
乃々い
歌は

系部の二
二の
此
一向
梅 八
揚屋
涼
つと
葵
山科
山科
清
石
石
石

本乃結の宿之系よ
落楸抄乃
脊戸川
吳竹の伏
灯籠
末輝
老吏
一雨
梅や
年尚
津
懐
淡
常
まの
系

西月奄
笑家淨阿

翻ら
此
唐
夜
ふ
下
能
新
葵
皮
後
僕

ケ
五

の
二

一里港 醫
依 園 亮
依 燈 亮
夕のちよ油を
買ふは供之
すゝり

和しうきと
くゆく
熱くそと
尊舟 梅舟
也舟之 中舟
舟舟 つと入
物の約 零
解す 中め
梅 ちる由
也舟 冷る
園 梅見
下 宝舟
年礼 裏舟
田梅舟 ち追

朧衣切つてとと松飾り
跡をの今とと舞あふる涅槃像
除夜乃楊屋一ふりあふ人
照射新中名の管より若く
石橋のシテと止りたらし
尼の身のみ戒は師の御親堂
蝶もあふく鳴ふ英り
横山よりうらうらと編舟
午乃此玉子の女警出
宵子達れしと素と鏡より
麻糸のやうにん限る八海
葱掛く居る言はれも
村より此比一細夜乃書
新之乃言うる年
朝の後の揚屋の
星霜卷

熊谷白頭

道回ハ初頭一道の
白捨てさうに
逆過泉の
危吹と
新列
嘆し
八代
日板
ま
七
傍
柔
う
道

五

五

聖雲 桐 榎
 菊 桐 榎
 松 芦 栞
 寺 尊 僧 史 禿

誘われし思葉の外乃三年忘れ
 羽子板てとふ此凡とをひ初也
 麻子席る幸既ち者とと銘の秋
 菩薩も鬼も己一と英一に
 似城子飾くも。初日新
 笑しぬ時ハ眠る。うし
 こりりくは初夜乃浮息ハ朝
 梅仕女小田とんは七六日乃
 似城乃赤門通る。梅 時
 吉原も鈴記淡く松乃内
 痛く歩ハ雨存乃一ハ怒の声
 君とえし梅とく。梅の家
 血と吐ぬ斗。初吉の松葉賣
 かし秋とんせ。揚屋の桐一系
 欠為乃天下晴れ。の津路山
 米とえぬ村の果も山 梅

矩久齋 本間保牛

弱き方
 字付のや
 夕起て
 舟一あり
 渡り地紙
 六浦市上
 舟田 藤花
 医者 傍
 女房 三前
 新比 糸蚕
 系店 近巻
 蠅

一年忘れききとえくつとさうり
 一声 障 中川
 号も戸とぬりひる 紙の馬
 せ初もとらる。由他の葉
 ゆり山二川に切れし蛇とんく
 吾解しとま死とん方永年と
 わり山松舞白小上りくち
 雨のそり日也の寺にかんこも
 誘る氷をさる。梅 榎
 並巨燧冬の上乃根を
 二月三つ梅川もも。か
 下り高きとさ。梅の雨涼
 負ぬらとと。梅 榎
 一日 音り 白い 黒い

抄五

廿二

近來... 白中感情
樹...
つ...
仕...
仕...

誰口...
少...
地...
者...
好...
生...
園...
馬...
有...
育...
打...
勢...

茶末... 二階... 仁... 夢... 州... 城... 情... 富士... 之井... 雨... 母...
茶末... 二階... 仁... 夢... 州... 城... 情... 富士... 之井... 雨... 母...
茶末... 二階... 仁... 夢... 州... 城... 情... 富士... 之井... 雨... 母...

太平菴 大町連馬

之川... 中... 百... 疫... 債... 先... 橋... 病... 山... 川... 七... 関...
之川... 中... 百... 疫... 債... 先... 橋... 病... 山... 川... 七... 関...
之川... 中... 百... 疫... 債... 先... 橋... 病... 山... 川... 七... 関...

五

四

